

2019 年度決算

1、はじめに

2019 年度は、既存の債務返済と、西新橋キャンパス再整備を含めた投資計画に必要な資金を賄える決算を目指して運営されましたが、良好な医療収入の伸びと、各機関の経営効率化努力により、基本金組入前当年度収支差額（利益）は予算を上回る結果となりました。

2、資金収支計算書

固定資産投資は 265 億円でした。内容は、建設仮勘定（新外来棟建設資金支払いが主）87 億円、医療器械 78 億円、教具（システム投資）22 億円、建物 16 億円でした。この他有価証券に 59 億円投資しました。

固定資産投資金額が大きく、次年度繰越金は 463 億円と前年度末比で 103 億円減少しました。現金・預金・有価証券の合計残高は 773 億円となり前年度末比 43 億円減少にとどまりました。

3、事業活動収支計算書

収入の部は、医療収入の増加等により予算を 18 億円上回る 1,112 億円となりました。

支出の部は、1,073 億円で予算を 4 億円上回りましたが、要因は医療経費が予算を 14 億円上回った為です。この結果、基本金組入前当年度収支差額（利益）は 39 億円となり、予算を達成することができました。

4、貸借対照表

純資産の部の増加 39 億円は当年度の利益です。この利益の内 29 億円は借入金と長期未払金（リース、割賦の支払）の外部負債の返済に充当されましたが、未払金の増加等があり負債の部・純資産の部の合計では 100 億円の資金余剰が生まれました。

固定資産の部では、新外来棟竣工に伴い建設仮勘定が建物に振り替わり、建物との合計で 64 億円増加しました。医療器械は新外来棟・N 棟用の機器を中心に 60 億円増加し、教具も第三病院の電子カルテ更新と新外来棟の病院システム投資により 13 億円増加しました。これらの支出を賄う為に現金・預金を 102 億円取り崩しました。

尚、貯蔵品の 7 億円増加は、薬品と医療材料の増加が要因です。

純資産の部の合計は 1,557 億円で、自己資金比率は 68.9%となりました。

5、決算開示方法について

平成 16 年度の私立学校法の改正に伴い、本学の事業報告書、法人誌「The JIKEI」、インターネットのホームページでの決算報告は、文部科学省への届出フォームで開示しております。

以上